

Q： 幼い子供がおりますが、避難する場所として、ここなら絶対安心という地域があればどこへでも移住する心積もりですので、教えてください。

A： 福島原発事故で大気中に放出された放射性物質が北は北海道から西日本、四国、一部九州まで拡散しているとの解析を日米欧の研究チームが纏め、11月15日アリカ科学アカデミー紀要電子版で発表した。

図表はセシウム137（半減期30年）による全国の汚染状況であるが、僅かだが九州でも沈着している可能性がある。

米宇宙研究大学連合（USRA）の主任研究員である安成哲平研究員（名古屋大教授）が中心になった研究チームが、大気中の汚染物質の拡散を20km四方で計算するシステムを使い事故後の天候として風向、降雨等を換算しシュミレーションをした。

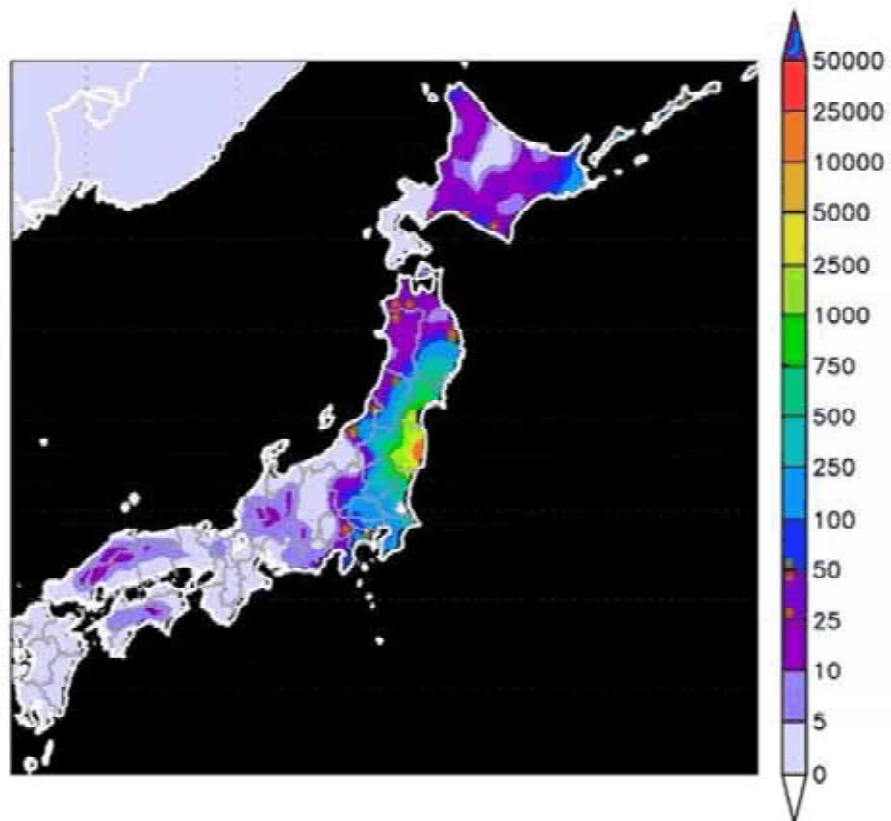
福島県内の事故現場近くでは現地での立ち入り測定を行っており、細部に至る分布図があるが、遠隔地ではこのシュミレーションによる拡散状況が参考になる。

研究チームは、「直ちに人体への影響がある量ではなく、除染を必要とするレベルではない」としています。ここで注意していただきたいのは、直ちに という言い回しですが、直ちにでなくとも、将来的には影響があるのかと、疑問視しますが、日本語の言い回しで、余り意味のない巻頭語だと解釈して下さい。

沈着量は、土壌中濃度に換算した値でも、汚染米の作付け制限の基準を下回っている。

ただし、このシュミレーションのデータは3月20日から4月19日間の資料であって、3月19日以前のデータはないために解析の対象に含んでおらず、実際の沈着量はこのシュミレーションより多めになるだろう、としています。

内部被曝に関する研究が京都大学防災研究所の石川裕彦教授（環境災害）の研究チームが7月2日～8日の間、20km～70km圏の住民が食事のために購入するであろうスーパーマーケットで野菜、魚、肉、飲料水等を購入し、放射性セシウムの含有量から食事による内部被曝量を推定、これによる



と、平均で年間0.03mSv、濃度の高い食料を毎日食べ続けたと仮定しても0.083mSvと推定した。呼吸は地上1.5Mの大気中のチリを集め、含まれたセシウムから呼吸による内部